

アイ・ティー・シーネットワーク株式会社  
証券コード: 9422

## 第14期 中間 株主通信

2010年4月1日~2010年9月30日

### 目次

01	株主の皆様へ
03	2010年度 第2四半期累計期間 事業のご報告
04	ITCネットワークについて
05	用語解説
05	CSRへの取り組み
06	会社情報・株式情報



株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の2010年度第2四半期累計期間の業績は、端末販売は堅調に推移したものの、年度当初の通信キャリアの手数料改定の影響を補うには至らず、売上高587億43百万円(前年同期比2.3%減)、営業利益17億10百万円(同40.2%減)、経常利益17億32百万円(同40.1%減)、四半期純利益6億93百万円(同52.7%減)と厳しい業績となりました。

第3四半期以降も厳しい状況が続くことが予想されますが、今期の各通信キャリアの戦略商品であるスマートフォンが続々と投入され、当社の持つ販売チャネルの強みが発揮できるとともに、全社的な経費削減策や不採算取引の見直しなどを徹底することで、中間期の進捗の遅れを取り戻す所存であります。現時点ではその進捗遅れを完全には補うことが難しいと見込まれ、通期の業績につきましては、10月に下方修正し、売上高1,170億円、営業利益47億円、経常利益47億円、当期純利益21億30百万円としております。

このような状況下においても、当社は高いサービス品質の追求を通して顧客満足度の向上と顧客基盤の拡充を進め、同時に業務効率の向上も目指して、たゆまぬ努力を日々重ねてゆく所存でございます。そして、今後も企業理念実現のための基本姿勢「主体的に」「フェアに」「誠実に」を胸に刻み、明日へのさらなる成長のために、新たな価値創造への挑戦を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 寺本 一三

## 新たな、価値創造へ

### 企業理念

「人間尊重」の経営を標榜し、  
個の「価値」、会社の「価値」を高め  
社会に貢献する。

## ITCN VALUE

### 理念実現のための基本姿勢

#### 主体的に

すべてに主体性を持って  
考え、行動する。

#### フェアに

すべてにフェアな精神を  
持ち、フェアな判断で  
行動する。

#### 誠実に

すべてに誠実な  
気持ちを持って  
行動する。

### 理念実現のための3つの価値創造

#### 価値連鎖の創造

社員・会社・顧客・株主の新たな価値関係

#### 「パートナーシップ」という価値創造

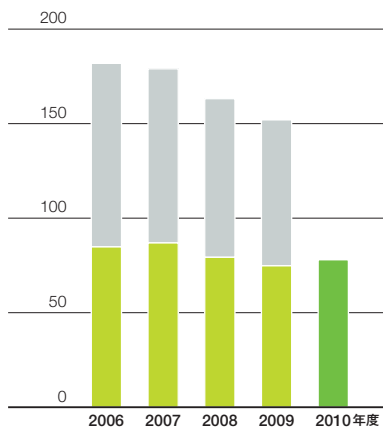
自立・自律する「個」とのパートナーシップ

#### 「チームワーク」という価値創造

「協調」「協働」の精神が生む真のチームワーク

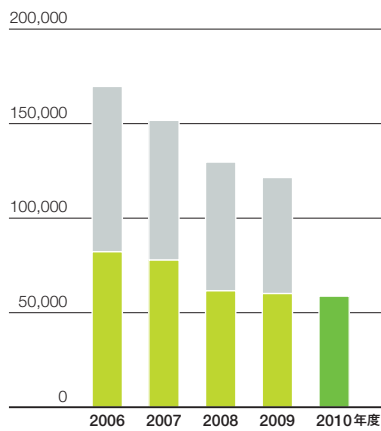
### 販売台数

(万台)



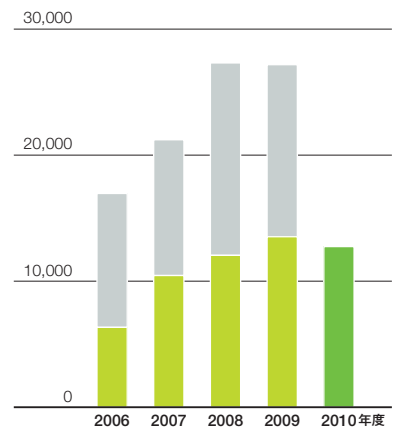
### 売上高

(百万円)



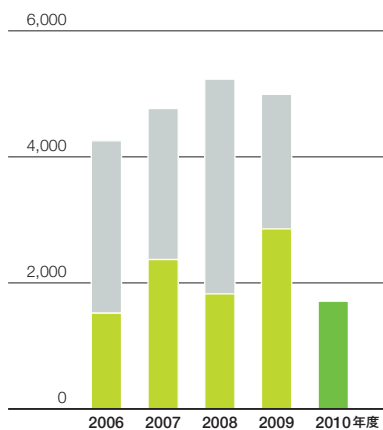
### 売上総利益

(百万円)



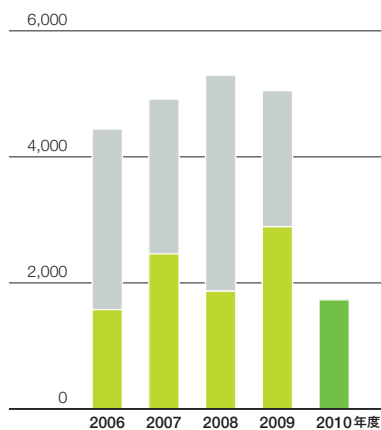
### 営業利益

(百万円)



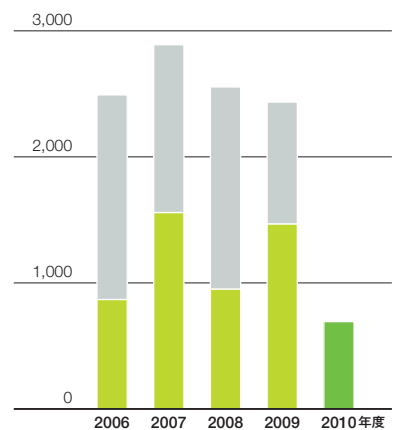
### 経常利益

(百万円)



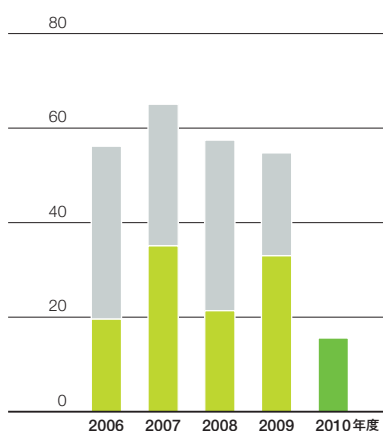
### 四半期(当期)純利益

(百万円)



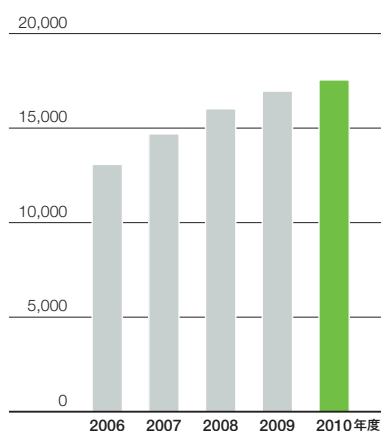
### 1株当たり四半期(当期)純利益※

(円)



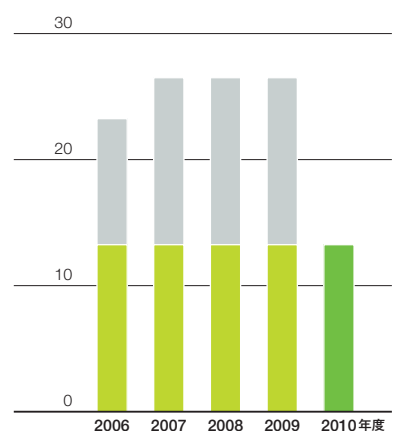
### 純資産

(百万円)



### 1株当たり配当金※

(円)



■ 第2四半期累計期間 ■ 通期

※当社は、2010年4月1日付で株式1株につき400株の株式分割を行っており、1株当たり四半期(当期)純利益および1株当たり配当金は分割考慮後の金額を記載しております。

2006年度は連結、2007年度以降は単体の数値を掲載しています。

# 2010年度 第2四半期累計期間 事業のご報告

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、一連の景気対策やアジアを中心とした外需の効果により一部の企業に収益改善が見られたものの、所得・雇用環境は未だ厳しい状況であり、米国経済の回復懸念などによる急激な円高もあり、先行き不透明な状況で推移しました。

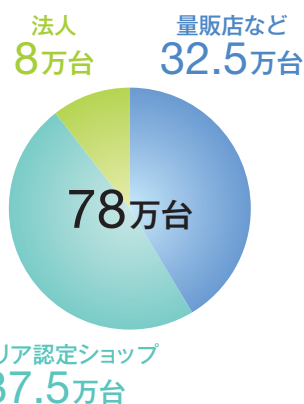
当社が事業活動を展開する携帯電話市場におきましては、スマートフォン、データ通信端末、モバイルWi-Fi端末、法人専用端末などの魅力的な端末が投入され、新たな市場の拡大が進みました。2010年4月から8月までの国内の携帯電話などの累計出荷台数は1,405万台と、前年同期比7.0%の増加となり、6月を除くすべての月で前年同月比プラスとなりました(社団法人電子情報技術産業協会調べ)。

このような事業環境の中、当社は、大手カメラ/家電量販店を中心にスマートフォンなどの販売を伸ばすとともに、キャリア認定ショップにおいては顧客満足度の追求、法人チャンネルにおいてはお客様基盤の拡充に加え法人専用端末の販売に注力しました。

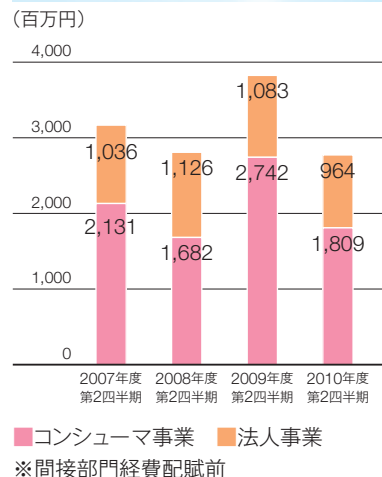
当第2四半期累計期間の売上高は、販売台数が78万台と前年同期比4.9%増加したものの、データ通信端末などの安価な端末の構成比が高まったことおよびキャリアの手数料の減少により、同2.3%減の587億43百万円となりました。

また、利益につきましても、年度当初の通信キャリアの手数料改定などにより厳しい状況が続く中で不採算チャンネルの整理や経費抑制策などを進めましたが、未だ遅れを補うには至らず営業利益は同40.2%減の17億10百万円、経常利益は同40.1%減の17億32百万円、四半期純利益は、第1四半期に「資産除去債務に関する会計基準」などの適用に伴い、1億78百万円を特別損失に計上したこともあり、同52.7%減の6億93百万円となりました。

販売チャンネル別販売台数  
(2010年度 第2四半期累計)



セグメント別営業利益\*



## コンシューマ事業

大手カメラ/家電量販店においては、都心型カメラ量販店の強みを活かしスマートフォンやモバイルWi-Fi端末の販売に注力し販売を伸ばすことができました。また、キャリア認定ショップを2店舗新設するとともに、11店舗の移転・改装、2店舗の閉鎖を実施するなど、店舗網の強化・合理化を進めました。

しかしながら、年度当初からの厳しい状況を回復するには至っておりません。

この結果、売上高は519億31百万円(前年同期比1.2%減)となり、営業利益は18億9百万円(同34.0%減)となりました。

## 法人事業

企業の投資意欲が十分でない中でも、携帯電話の通信コスト・管理コスト削減への関心や情報セキュリティ意識は高く、回線管理サービスの「E-PORTER」の契約獲得が進み、当第2四半期末の「E-PORTER」の契約回線数は、31.7万回線と前年同期比24.2%増加しました。

このように、法人顧客基盤の拡充は順調に進むとともに、第2四半期後半に販売を開始した法人専用端末が法人顧客に受け入れられましたが、前年度の水準には至らず、売上高は68億12百万円(前年同期比9.8%減)、営業利益は9億64百万円(同11.0%減)となりました。

## 2011年3月期通期個別業績予想数値の修正 (2010年4月1日~2011年3月31日)

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	120,000	5,100	5,100	2,350
今回修正予想(B)	117,000	4,700	4,700	2,130
増減額(B-A)	△3,000	△400	△400	△220
増減率(%)	△2.5	△7.8	△7.8	△9.4
(ご参考)前期実績 (2010年3月期)	121,495	4,993	5,051	2,435

### ■ 配当予想について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と認識し、継続的に安定した配当を行っております。業績予想は厳しいものの、配当につきましては、変更せず、1株につき年間26.5円(期末13.25円)を維持する予定です。

## ITCネットワークについて

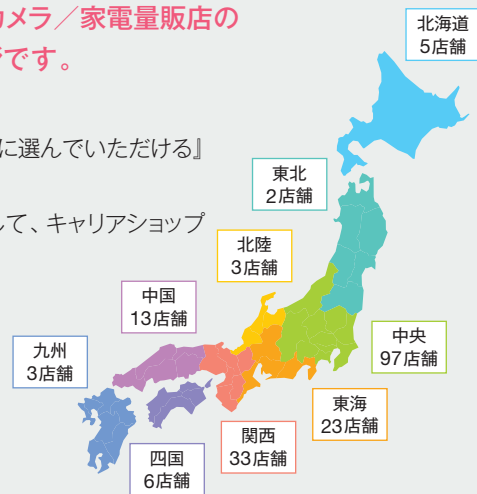
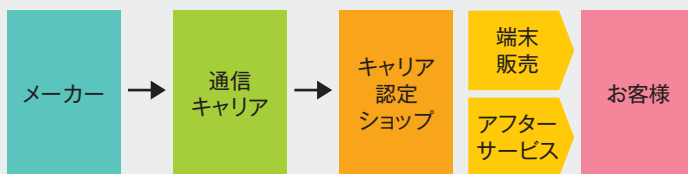
### ■ 事業案内

**コンシューマ事業** いつも発見のある付加価値型ショップと、大手カメラ/家電量販店の2つの流通チャンネルが、私たちのアドバンテージです。

#### ■ キャリア認定ショップチャンネル

携帯電話の高度化とサービス多様化が一層進む中、ITCネットワークは、『お客様に選んでいただける』付加価値型のショップづくりを進めています。

NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルなどの、通信キャリアの一次代理店として、キャリアショップを全国に展開しています。



#### ■ 量販店チャンネル

常に新しい情報を取り入れ、大規模な物流・開通センターをバックボーンに効率かつ正確な流通販売業務を行っています。



### ■ 法人事業

ビジネスのチャンスと可能性をベスト・ソリューションでバックアップします。

ITCネットワークは、法人のお客様に対して、FMC (Fixed Mobile Convergence: 固定と携帯との融合)へと繋がるIT技術の進化に対応しながら、お客様のビジネス戦略の具現化に向けて、課題解決のためのサービスをご提供いたします。



### ■ 役割

携帯電話がお客様のお手元に届くまでには、多くの企業が携わっています。

ITCネットワークの役割は、メーカーが作った携帯電話にいのちを吹き込みお客様にお渡しすることと、お客様が快適に携帯電話をお使いいただくためのアフターサービスをご提供することです。

## 用語解説

### コンシューマ

「消費者」「個人顧客」という意味。当社においては、事業セグメント(事業区分)において、法人事業に対する用語として使用しています。

### スマートフォン

多機能携帯端末のこと。従来の携帯端末にパソコン・PDA(携帯情報端末)などの機能を組み込み、画面が大きくデータ通信機能が強化されるなど、音声通話以外のデータ通信機能が充実している特長があります。

### データ通信端末

PCとサーバ間などで情報のやり取りをするためのカード型端末。PCに接続し使用します。

### Wi-Fi

Wi-Fi Alliance(無線LAN製品の普及促進を図ることを目的とした業界団体)によって無線LAN機器間の相互接続性を認証されたことを示す名称、ブランド名。

### モバイルWi-Fi端末

持ち運びできるWi-Fi端末。

### キャリア認定ショップ

ドコモショップ、auショップ、ソフトバンクショップなど通信キャリアの看板を揚げ、通信キャリアからの業務委託を受けて、端末販売、通信サービスなどの契約取次、故障や料金プランの変更などのアフターサービスを行う店舗のこと。

### E-PORTER

大量の携帯端末を利用している法人顧客などで携帯電話の通信料金などを管理する当社のサービス。

### 情報セキュリティ

情報の機密性、完全性、可用性を維持すること。当社では、個人情報をはじめとした情報の厳しい管理を指しています。

### チャンネル

販売流通経路。

### ソリューション

本来は解明、解決を意味する。当社においては、「業務上の問題解決や要求の実現を行うための情報システム全般」を指しています。

### FMC

Fixed Mobile Convergenceの略。固定電話などの有線通信と携帯電話などの無線通信を組み合わせた通信サービスの総称。

## CSRへの取り組み

### ■ キッズ職業体験

2010年8月、ITCネットワークは昨年に引き続き、直営ドコモショップにおいて、小学生を対象とした職業体験を実施しました。体験時間は2~3時間ほど。子どもたちに、働くことを通じて社会の仕組みを学んでもらう機会のひとつとして実施したものです。

参加されたお子様や保護者の皆様、ご来店いただいたお客様にも大変好評でした。今後も引き続き、地域の皆様との交流を通じた社会貢献活動を推進していきます。



ティッシュ配り



店頭展示品(携帯モック)拭き

## 会社概要

商号: アイ・ティー・シーネットワーク株式会社  
ITC NETWORKS CORPORATION

本社所在地: 〒150-6026  
東京都渋谷区恵比寿4-20-3  
恵比寿ガーデンプレイスタワー26F

設立: 1997年8月

資本金: 2,734,667,500円

従業員数: 1,961名

会計監査人: 有限責任監査法人トーマツ

## 役員

代表取締役社長	寺本 一三
取締役専務執行役員	金子 信幸
取締役専務執行役員	渡辺 厚志
取締役常務執行役員	前泉 康一
取締役	新宮 達史*
常勤監査役	菊島 範一
監査役	遠藤 隆**
監査役	浅倉 靖**
監査役	阿部 紘武**
常務執行役員	大澤 雅弘
常務執行役員	松本 博
常務執行役員	中田 伸治
執行役員	石井 彰
執行役員	川嶋 伸介
執行役員	井上 正大
執行役員	目時 利一郎
執行役員	渡辺 元

\* 社外取締役 \*\* 社外監査役

## 株式の状況

発行可能株式総数: 153,600,000株

発行済株式数: 44,532,400株

株主数: 6,155名

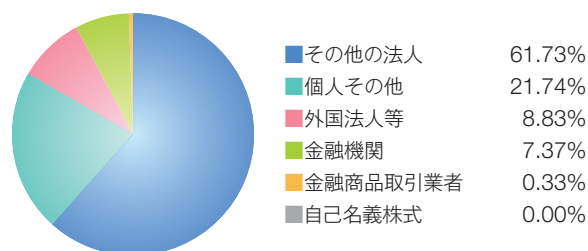
## 大株主

(上位10名)

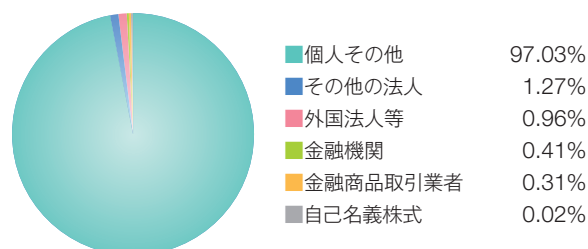
株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
伊藤忠商事株式会社	26,996,000	60.62
ゴールドマン・サックス・ インターナショナル	2,089,800	4.69
ドイチェバンクアーゲーロンドンピーピー ノントリティークライアントズ 613	1,056,140	2.37
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	760,300	1.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	646,600	1.45
資産管理サービス信託銀行株式会社 (年金信託口)	569,000	1.28
ITCネットワーク社員持株会	510,700	1.15
株式会社南日本銀行	238,400	0.54
エイチエスピーシーファンドサービスズ クライアントズアカウント 500 ピー	231,200	0.52
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口3)	118,500	0.27

## 株式の分布

### 所有株数構成比



### 株主数構成比



## 株主メモ

**事業年度:** 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
**定時株主総会:** 毎年6月開催  
**基準日:** 定時株主総会 毎年3月31日  
          期末配当金 毎年3月31日  
          中間配当金 毎年9月30日  
そのほか必要がある場合は、  
あらかじめ公告して定めた日

### 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関:

大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

### 株主名簿管理人事務取扱場所:

東京都中央区八重洲二丁目3番1号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒183-8701  
                  東京都府中市日鋼町1番10  
                  住友信託銀行株式会社  
                  証券代行部  
(電話照会先) ☎ 0120-176-417

**証券コード:** 9422

### 公告方法:

電子公告の方法により行います。  
ただし、やむをえない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

(公告掲載URL)

<http://www.itcnetwork.co.jp/reports.html>

### 諸手続きに関するご案内

#### ■ 住所などの変更手続きについて

住所、氏名、配当金振込口座などの変更は、お取引の証券会社にお申し出ください。

#### ■ 未受領の配当金について

未受領の配当金は住友信託銀行にお申し出ください。

### IRメール配信サービスを提供しています

投資家の皆様にタイムリーに開示情報をご提供するために、最新のニュースリリースやホームページの更新情報などを、あらかじめご登録いただいた電子メールアドレスに配信する、IRメール配信サービスを提供しています。

#### IRメール配信サービスのご登録は

<http://www.itcnetwork.co.jp/ir/>

**IR情報→IRメール配信**

上記よりご登録ください。

### 本株主通信に関するお問い合わせ先:

アイ・ティー・シーネットワーク株式会社 経営企画部IR課

**03-5739-3702** (9:30~18:00)

